



カルデラという大きな器。ここに身を置き、ここで作っていく。

火の国 阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

阿蘇好きの父の感化で、この自然に魅せられた。

庵と呼びたい仕事場を山のふところに持つ山下太さんは、

時間があれば、奥へ奥へと山道を追遙します。

かつてこの地は僧侶の住まう「坊」がたくさんあったところ。

修行や思索にふさわしい静まりが満ちている。

世界に冠たる阿蘇のカルデラは、つまり壮大な器。

その器にわが身を置き、日々、自らの手のなかで器を作る。

なるほど、とても美しい関係です。

もちろん染めるのは、阿蘇の草木の釉薬。

今日も掌のなかに阿蘇が焼き上がっています。

工房に並ぶ作品群は、ふと物思いにふける古代人のように、

無口で創造性に富んでいます。

阿蘇坊窯 山下太

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。